

資産運用レポート：テクニカル分析再考

1 はじめに

下図をご覧ください。直近2年の日経平均日足チャートです。

2020年3月のコロナショックで1万7千円割れの急落を演じた後、2021年2月には3万円を超えるという、まるでジェットコースターのような値動きでした。株価に振り回され、精神的に疲れてしまった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし「やさしい相場でのみ、買いのポジションを持つ」という売買ルールに従う投資を行うことで、この難局を乗り切ることができました。一例をあげれば、やさしい相場の条件は次のとおりです。

- (1) 日経平均が75日移動平均線より概ね上に位置している
- (2) かつ75日移動平均線が上向きである

このルールによる売買のタイミングを下図に入れました。

まず2019年9月に買いを入れます。上記のルールを満たしたため、やさしい相場になったと判断できるからです。次にポジションを半年近く持ち続けた2020年2月、日経平均が75日移動平均線を大幅に割り込み、売りのサインが出ました。この間、日経平均の値幅が1500円程度に過ぎず、銘柄によってはほとんど利益が出ていないかもしれません。

★日経平均株価日足と75日移動平均線 直近2年

